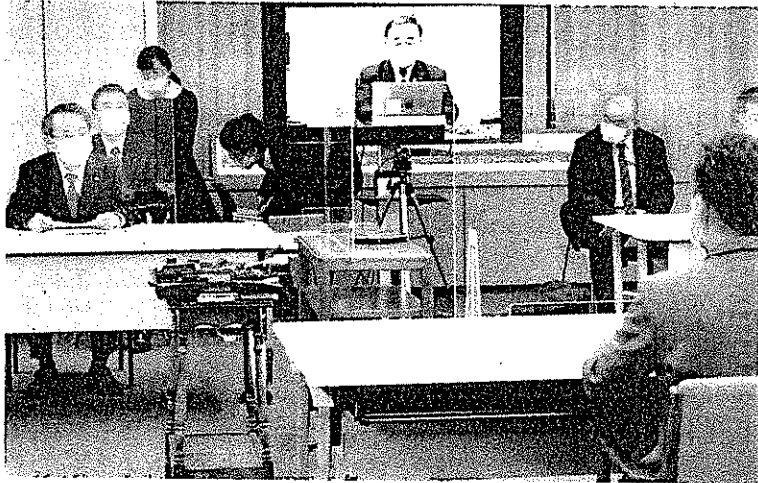


中間貯蔵施設の県外候補地を2023年末までに示すとの考えを、杉本達治福井県知事（手前右の後ろ姿）に説明する関西電力の森本孝社長（左端）。梶山弘志経済産業相（中央奥のモニター）はオンラインで出席した
 ー福井県庁で12日、大島秀利撮影



40年超再稼働福井「検討」

美浜・高浜原発 中間貯蔵先送り容認

2/13
毎日

運転開始から40年を超えた関西電力の美浜原発3号機（福井県美浜町）、高浜原発1、2号機（同県高浜町）について、福井県の杉本達治知事は12日、再稼働に向けて前向きに検討する姿勢を示した。この日の国や関電との面談で表明した。県は関電に対し再稼働同意の条件として、使用済み核燃料の中間貯蔵施設の県外候補地提示を求めているが、関電の「2023年末までに確定させる」との提案を受け入れ、課題解決を先送りした。杉本知事は会談後、記者団に「県議会に再稼働に向けた議論を促

したい」と述べた。中間貯蔵施設を巡っては20年12月、電気事業連合会と経済産業省が、青森県むつ市の施設を関電を含む電力各社で共同利用する案を提示したが、同市が猛反発。関電は同月、年内の県外候補地提示を断念し、福井県に「早めに改めて報告する」と伝えていた。

この日は梶山弘志経済産業相、資源エネルギー庁の保坂伸長官、関電の森本孝社長、杉本知事の4者が面談。森本社長は同施設の県外候補地の提示を「20年を念頭」としてきた方針から「23年末」にする考えを示し、それまでに運転（再稼働）した場合でも「期限までに確定できない場合は、確定できるまでの間、美浜3号機、高浜1、2号機の運転はしないという不運転の覚悟で臨みたい」とした。杉本知事は「県議会での議論など、

今後の対応を検討する」と述べ、確定前も含めた再稼働の議論を始める考えを示した。オンラインで出席した梶山経産相は「問題解決に向け官民挙げて取り組んでいく」と述べた。

関電は美浜3号機を21年1月、高浜1、2号機を3月以降にそれぞれ再稼働する工程を示していたが、中間貯蔵施設の提示ができず、予定が崩れている。一方、美浜、高浜両町議会と高浜町長は既に再稼働に同意しており、県の判断が焦点になっている。【岩間理紀、大島秀利、近藤諭】